

目 次

論文（一般投稿）

今城 希望・阿部 哲理・小守林真実・石川 遥至・牟田 季純・越川 房子

2種類の瞑想の実施順序が瞑想初心者に与える影響——主観評定と脳波を指標として——……………1

夏 心言

情与理的和谐——清代宫廷花部曲本对小说情节的继承与改造……………9

稀代麻也子

沈約『宋書』の何承天……………(1) 524

後藤 渡

De la mémoire collective à la mémoire préhumaine dans l'espace commun de *La Vie mode d'emploi* :
la porte et l'ascenseur……………21

崔 鵬偉

仏教靈驗譚と絵画の中の天童——『高僧伝』から『今昔物語集』へ——……………(9) 516

佐々木大輔

彫像とその幽霊——シュルレアリスムにおけるジョルジョ・デ・キリコの神話……………35

柴崎公美子

「説唐」における休妻故事について……………(25) 500

高 安 理 保

Les Rivaies, « coup d'essai » de Quinault, poète de la surprise……………47

田 中 垂 美

『江島縁起』悪龍教化譚の典拠表現……………(37) 488

田 中 雅 史

ヒトと動物の比較文化論……………61

陳 艷 林

清傳奇《鸚鵡夢記》及其作者趙關曉考……………73

戸 嶋 匠

相対化の文体、その綻び——G. ビューヒナー『レンツ』とH. v. ホーフマンスタール『アンドレーアス』——……………83

豊田真穂・嶋崎尚子

「尚道遠し」：1950年代常磐炭礦における受胎調節指導とその成果……………95

中 村 涼

カント倫理学における可想界の概念……………109

名 原 宏 明

「無原罪の御宿り」の図像における地上の風景表現——ペドロ・デ・メナの彫刻作品を中心に——……………121

長谷部圭人

18世紀フランスにおける種痘論争の始動——1723-1754年の展開を中心に——……………135

藤原秀之

「宝玲文庫」復元の可能性について——F. ホーレー遺品資料中の蔵書目録と現存資料の同定の試み——……………149

福田淑子

カルロ・クリヴェッリ作《無原罪の宿り》——天使が捧持する冠についてのスコラ学的解釈——……………165

古屋詩織

アンドレ・マッソンにおける東方——シュルレアリスムのオートマティスムと東洋絵画との交差——……………179

三浦清美

アキル＝アヒカル物語群（中近東、スラヴ地域）と棄老伝説難題型（東アジア、インド）の
一致をめぐる考察——物語の構造分析から歴史へ……………191

村山雄紀

接触の瞬間——ロジェ・ド・ピールの絵画論における視覚と触覚の両義性をめぐって——……………205

山本佳生

「ロキ・コムーネス」教育とコモンプレイスブックの出現……………219

楊卓婧

平安仮名文学における「絵に描きたるやう」と「絵に描かまほし」……………(51)474

渡辺浩太

道徳的観点における他者性の契機……………231

渡邊義浩

『墨子』の非攻と『孟子』の義戦……………(65)460

研究ノート・翻訳・翻刻・報告書・書評（一般投稿）

大澤茉歩

早稲田大学図書館蔵「仏鬼軍絵巻」翻刻と解題……………(73)452

呉心怡・谷川遼・横山未来・高橋亘・岸田彩

千葉県印旛郡栄町みそ岩屋古墳の測量・GPR調査……………243

清水悠佑

宮廷派としての《カール大帝福音書》とその位置付け……………263

張龍龍

台湾における大陸籍〈青年兵士〉の定着：
1960年代から1970年代の家族形成、退役、就職を中心に……………273

谷口眞子

【書評】竹本知行『大村益次郎—全国を以て一大刀と為す—』（ミネルヴァ書房、2022年3月）……………287

長尾天

憂鬱なイコノロジー——20世紀美術史と美術史学の同時代性をめぐる一視座……………293

益田朋幸	
The Virgin Orans in Byzantine Apse Decoration	309
特集1 RILAS 研究部門「トランスナショナル社会と日本文化」	
「近世日本の海外知識、海外の近世日本知識」	325
米谷 均	
キリシタン宗門に対する非キリシタンの認識——キリシタン宗門は「仏法」の一部か否か——	326
権名 浩	
関係断絶期のスペイン認識——情報と史料の類型	331
サボー・ノエミ	
近世ハンガリーにおいて新聞記事に掲載された日本に関するニュース	337
特集2 RILAS 研究部門「グローバル化社会における多元文化学構築」	
国際シンポジウム「東アジア文化交流—古代・中世仏教の相互往来—」	343
特集3 RILAS 研究部門「イメージ文化史」	
「私たちは立ち上がる——『燃ゆる女の肖像』における生の取り戻し」	357
原田麻衣	
まなざしの平等性と語りの視点	357
横田祐美子	
絵画における「生き生きとしたもの」——『燃ゆる女の肖像』に織り込まれた記憶	363
辻 佐保子	
「振り返ってよ」——『燃ゆる女の肖像』の音楽と幻影に見る回想のドラマトゥルギー	368
久保 豊	
彼女の唇をもう一度味わうために——『燃ゆる女の肖像』にみる孤食と共食の表象	374
関根麻里恵	
「なかったこと」にしないための協同作業——『燃ゆる女の肖像』における中絶表象	380
特集4 RILAS 研究部門「知の蓄積と活用に向けた方法論的研究」	
「ライフコース論×環境社会学」	387
廣本由香	
『つながりの戦後史』を読む	388
笠原良太	
『鳥栖のつむぎ』を読む	393
西城戸 誠・嶋崎尚子・大倉季久	
コメント・ディスカッション	397

特集5 RILAS 研究部門「心と身体の関係と可塑性に関する学際的研究」

「日本ソマティック心理学協会第8回記念大会2021」……………409

宮田 裕光

日本ソマティック心理学協会第8回記念大会2021——開催の概要——……………409

越川 房子

マインドフルネス——注意と身体——……………412

山部 能宜

身心相関の観点からみた禅定の実践——アーラヤ識説をてがかりに——……………414

宮田 裕光

横断する身体と心の研究と実践——哲学、心理学、医療をつないで——……………416

彙報

総合人文科学研究センター 活動報告（2021年4月1日～2022年3月31日）……………419

編集後記

奥付